

磐城時報

編輯者 石城郡平町 田中 弘成
印刷所 石城郡平町 印刷所
電話 石城郡平町 電話
發行所 石城郡平町 發行所
電話 石城郡平町 電話
電話 石城郡平町 電話
電話 石城郡平町 電話

軍艦北上に便乗する

平町の三十名決定

二十三日小名濱から女川まで

海軍兵簡閲点呼のため小名濱港に入港する軍艦に便乗して宮城縣女川港まで行く者は兼てから平町役場で希望者八十名中から人選中であつたが、左の如く決定した。

宮澤末雄、神山政一、大越松吉、野崎滿藏、永山富廣、馬目武之助、吉田寅之輔、大河

天満宮例祭の

懸賞應募入選者

祭典は十九日、二十日執行

平町紺屋町鎮座天満宮祭典は十九日、二十日の兩日執行の筈であるが、ボンボリの表紙を平小學校に懸賞で募集した懸賞懸賞千數百名あり、第一校坂内伊貞、上遠野長重、第二校長谷川政、四家安男、第三校野木繁彌、大内秀次郎、紺屋町馬目雅治の各氏審査の結果左の九十九名が入賞した。

- ▲第一校 尋三、新妻常雄、神山勝伯、安齋憲次郎
- ▲第二校 尋四、池田志知郎、矢吹義一、志賀正義、中野義廣、河野和平、志賀純一、塚本慶治、菅田甫、大森昌一、小松公平、鈴木子郎、松本博、佐々木良
- ▲第三校 夫、新妻喜男、山崎道雄、尋五、鯨岡孝、北林義雄、荒川忠一、大坪章
- ▲第四校 尋六、酒井英世、鈴木義雄、菊地義雄
- ▲第五校 高一、筒内重利、船山勝衛、大垣退衛、酒井貞良、後藤利男、高二、遠藤金治、橋本多賀爾、中村芳郎、高橋一夫、草野力雄、高萩孝一、秋元勇三、猪狩辰雄、會川進
- ▲第六校 以上三十九名
- ▲第七校 一年、堀マキ子、原ツネ子、淺野ケイ子、高橋きみ子、關原ヨシエ
- ▲第八校 二年、奈良岡しめ、島海珠、大和田順子、瀬尾美佐子、齋藤光子、根原文子、若林百合子、三年、佐藤スミ、鈴木サヨ、横山キエ、力丸幸子、鈴木清子、菅野文子、本多サダ

桑原の横領

公金横領犯人桑原庸夫(三八)は平刑務所に收容されたが、今後同人の口から如何なることが擧げられるか興味深い。十七日は妻シゲ(二八)が平署の取調を受けた。桑原が横領した印紙、切手類の総額は詳細は不明であるが、大体一萬五千三百八十三圓といはれ、種類は一圓以下のもののみで中では一錢五厘、二錢三錢等の處分しやすく發覺し難いものを選んだもので、左の如く切手だけで各種取交せ二十一圓に達してゐる。

- ▲切手 五厘八百四十八枚四十二圓、一錢一圓一千四百枚十四圓、一錢五厘一萬一千六百枚百七十四圓、二錢一萬五千六百枚三十四圓、三錢四萬七千五百枚四十二圓、四錢四百枚四圓、五錢三千五百枚百七十四圓
- ▲印紙 百枚七圓五十錢、二錢二千枚四十圓、三十錢一萬九千八百錢、五十錢一萬四千圓、十錢八千八百圓、三錢一萬五千枚三千五百圓、五錢五千枚二百五十圓
- ▲印紙 三錢千枚三十圓、十錢三十枚三圓、五十錢二十枚十圓、一圓五十枚五十圓、外三千三百二十五圓分

不景氣風に巻く四苦八苦の花柳界

不景氣風は日毎に深刻の度を加ると、税金も稼げないと言ふへてゐるが、最もこの打撃を受難な状態である。この苦況打撃は平では花柳界方面で全破に就て種々考究されては居るが、名案も浮ばず、結局は休業し出すものが多い。最近休業する者續出し、五日以降で休業したもの竹の家七名を筆頭に二十二名に達してゐる。

品澤小いね、三島家千成、甲子、仲家國助、林家友江、同ふくべ、竹の家福奴、小菊を願出た。

水道の水不足で

平町地方は連日の暑さで水道使田の連中町役場はスポーツに理用高が急増し命たのむ貯水池解がないと恨んでゐる。水量は三分の一に激減したので節水宣傳や亂用防止に馬力をかけてゐるが、いよゝ土用光ともなれば断水騒ぎを現出するだらうと水道課でびく／＼してゐる。一方節水宣傳中にもみぢめなのは警中新設のプールでいよゝ水泳期に入ったので給水を申込んだら一滴もやられぬとこは知られぬ高石、鶴

唱歌遊戯講習

教育會主催唱歌遊戯ダンス講習會は八月十五日から二十七日まで二週間平町第一小學校に於て開催する事になつたが講師は左記の諸氏である。

- ▲東京市視學田村虎藏 ▲東京市音楽學校教授山本政雄 ▲同四至本藤技

平から神戸まで

田卷、長瀬、綿引三君の自轉車旅行 第三信 東京市にて

牛込區臺町の朝だ。惠まれた天候、大空は僕等の健康さと共に晴れてゐる。活潑なラヂオ體操を聞きながら、次の意味の通信を僕等が平への友人に書いた。唯一相變らず僕等は健康です。唯尻が少しアセモでやられませんが、大したことはない。水は一日に二三升飲用せん。先ず大東京に入つての第一印象は機械的な騒音だ。それは宛然中地方のそれに共通すべきではあるが、此處に注意

すべきは後者の自然的な無秩序さに對して、前者は立體的な整然さがあることゆゑ、大きな相違点だ。今や帝都は總て建築に交通に興味に労働に、其れ／＼の生存様式に機械的要素を取り入れてゐる。四通する往來は電車に自動車に時問を勞作を短縮化し、立體する市場に生産する工場に、その持つ多分な經濟性は如何にそれ等を能率化するかは僕等のしばしば見るところである。それより宮城、明治神宮を參拜し、東京日日、東京朝日の各新聞社、市役所、自強術本部、被服廠等を訪問し視察して日本橋の知人宅へ宿をとつた。

富士登山

一本齒の下駄 石城郡草野村平機關庫員坂本三四二君は一本齒の高下駄で富士登山をする筈であるが齒の高さは六寸で普通人の登山よりは寧ろ歩行の速度が早く二十五日同町白銀町青年分團の富士登山團体と同時に出發する由である成功は疑ひなく一般から非常に期待を集めてゐる。

人妻と駈落

湯本町品川白煉瓦會社職工岡部喜一郎(二三)は豫て情を通じて同會社職工鈴木與作妻キヨ(二五)との仲を最近與作が感付いたらしいので十六日午後十一時半キヨと其の長男玉男(二ツ)兩名の手を取つて駈落行方を見失つたので與作は平署に捜査方を願出た。

不景氣風に巻く四苦八苦の花柳界

藝妓の休業者續出

不景氣風は日毎に深刻の度を加ると、税金も稼げないと言ふへてゐるが、最もこの打撃を受難な状態である。この苦況打撃は平では花柳界方面で全破に就て種々考究されては居るが、名案も浮ばず、結局は休業し出すものが多い。最近休業する者續出し、五日以降で休業したもの竹の家七名を筆頭に二十二名に達してゐる。

品澤小いね、三島家千成、甲子、仲家國助、林家友江、同ふくべ、竹の家福奴、小菊を願出た。

